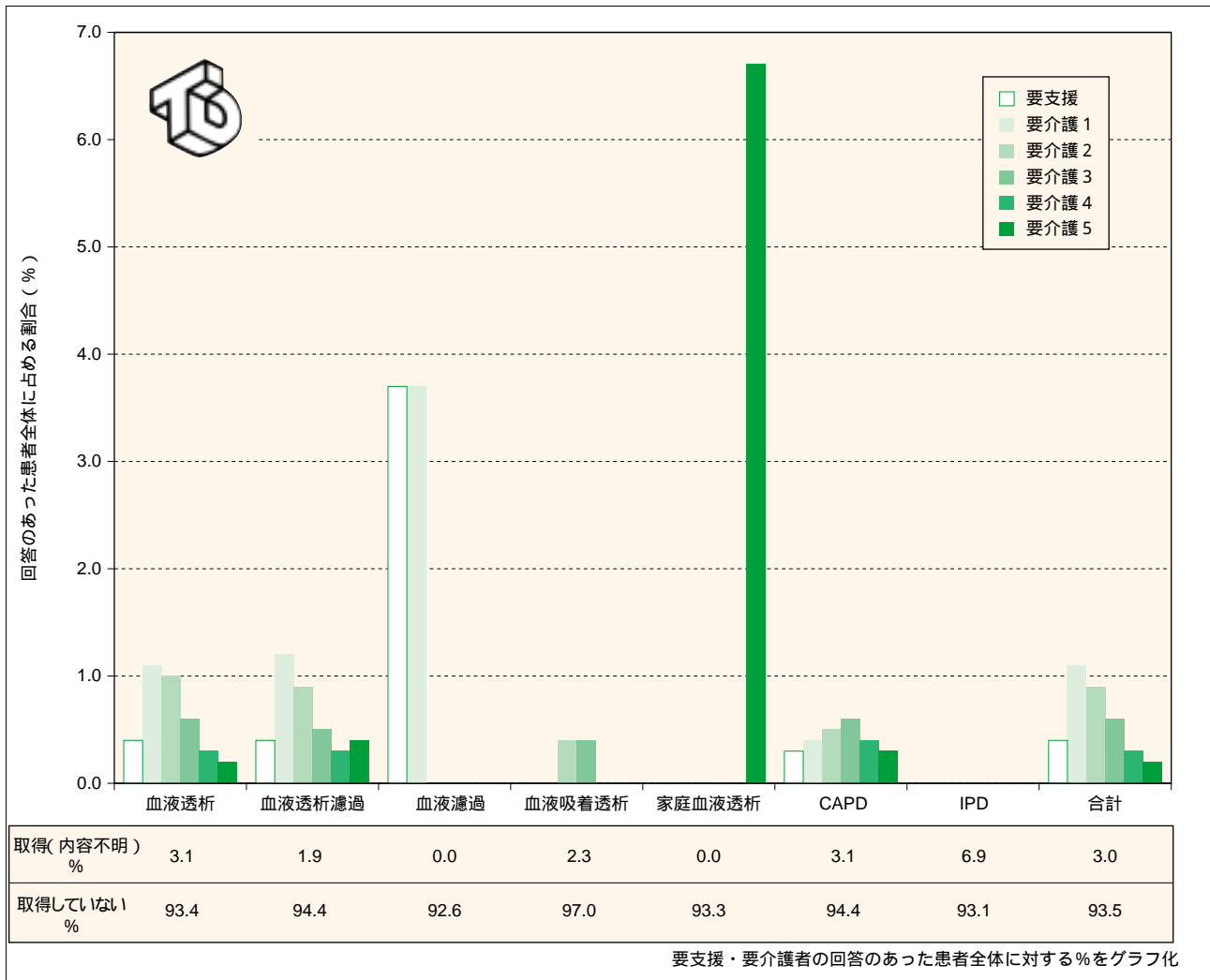


1) 介護保険取得状況

(2) 介護保険取得状況 治療方法別(40歳~64歳)透析患者全体 (図表22)



解説

治療方法別

介護保険の取得状況を、各治療方法別に集計しました。集計は40歳以上65歳未満と65歳以上の2群についてそれぞれ行いました。

40歳以上65歳未満の透析患者全体では、介護保険を取得している患者は6.5%にすぎません。これは若年層では要支援・要介護状態に陥る患者が少ないこと、前述のように40歳以上65歳未満の第2号被保険者で介護保険の受給が受けられるのは特定疾病15疾患に起因する要支援・要介護状態の患者のみであること、などが関与しているものと推測されます。

65歳以上では介護保険取得者が31.3%に上っています。しかし、介護保険取得者の取得内容は40歳以上65歳未満とほぼ同様の分布です。

介護保険を取得している患者の内容の分布では、要介護1から要介護5へと介護度が上がるに従って取得者が減っていく傾向を示しましたが、要支援は比較的少数でした。

治療方法毎の集計では、施設血液透析患者、血液透析濾過患者は透析患者全体にほぼ準じる分布を示しましたが、CAPD患者では施設血液透析患者に比べて、介護度の低い患者が比較的少なく、介護度の高い患者が比較的多い傾向を示しました。